７．鳥取市の婚活・子育て事業について　（松尾慶輔／社会人）

（１）鳥取市の婚活事業の成果について

○松尾慶輔議員

鳥取市若者会議の松尾慶輔と申します。最後の質問者となりました。皆様お疲れのことと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

本日、私は、婚活と子育て事業についてお伺いしたいと思います。

まず、婚活事業についてお伺いします。

２０１１年１１月２５日、国立社会保障・人口問題研究所が発表した出生動向基本調査、これは独身者を対象にした全国調査ですが、異性の交際相手がいない１８から３４歳の未婚者が男性で６１．４％、女性では４９．５％に上り、いずれも過去最高になっています。前回の２００５年調査と比べると、交際相手がいない割合は、男性では９．２％、女性で４．８％増加しています。

こうした状況の中、鳥取市若者会議Ｂグループ主催で、昨年の１１月１２日にカップリングパーティーを河原町の西郷地区で行いました。

まず、どんなイベントであったか概要を簡単に説明いたします。

そのときこういったパンフレットの資料を制作いたしまして、男性、女性１５名ずつを一般公募して、計３１名で開催いたしました。三滝渓の紅葉散策と窯元めぐり、これは牛ノ戸焼き窯と中井窯、それからやなせ窯の３件を徒歩で歩いて回ったものです。その後、湯谷荘において食事会をするという形式で行いました。その後、希望者のみですが、地元の民泊の体験もしていただきました。

結果として、３組のカップルが成立いたしました。

そのイベント終了後に参加者アンケートを実施しましたので、その中から４点ほどピックアップして紹介いたします。

まず、男性の平均年齢は３０歳、女性は２９歳でした。有効回答は、男性１１名、女性１６名の計２７名となっております。

まず１番、日常の場面で異性との出会いがありますかという問いに対して、よくある、たまにあると答えられた方は３５％、余りない、全くないと答えられた方は６５％でした。

２番目としまして、これまでにカップリングパーティーなどに参加された回数はという問いに対して、２回目、３回目以上が３８％、初めてという方が６２％という結果でした。

３番目といたしまして、イベントに参加されてどうでしたかという問いに対して、５段階

評価で４以上が７５％という高評価をいただきました。

最後に４番目といたしまして、またこのようなイベントに参加してみたいですかという問いに対して、９０％の方が参加してみたいという結果を得ました。

私たちが実施したイベントは、平成２３年度鳥取市新たな出会い支援事業補助金を活用させていただきました。ほかにも同様なイベントを開催されたと思いますが、その成果についてお伺いします。また、鳥取市の未婚率についてもお伺いします。

以上で登壇での質問といたします。

○竹内市長

松尾議員の御質問にお答えします。

婚活事業について、いろいろ実践的な取り組みもされて、それをもとにした御質問でもあると思います。

まず、未婚率等について最初にお答えしたいと思いますが、今、平成２２年の国勢調査の結果が出ておりますが、これで見ますと、まず日本全体の未婚率は２０代で７８．１９％、３０代で３４．７１％、もちろん男女分けていえば違う数字がまた出てくるのでしょうけれども、男女あわせて２０代の未婚率、３０代の未婚率はこういう数字になっています。この数字は、先ほど申し上げました２０代の７８．１９、３０代の３４．７１というのは、１７年の調査の結果と比べると、少しだけ未婚率が増加をしていると、２０代の方の数字は余り変わらないで０．０６％の増、３０代の方は１．８９％の増ということで、未婚率、未婚化という状況は、今、鈍化をしつつあるという感じを受ける数字となっております。

鳥取市と全国を比べた場合は、これは本市の未婚率を見る上ではまだ平成１７年の国勢調査を使っておるのですが、２０代で７５．１２％という未婚率で、そのときの全国の数字は７８．１３％です。全国の未婚率が７８に対して鳥取での未婚率が７５と、ですから未婚率が少し低い状態があります。それから３０代で鳥取の未婚率は２９．１６％、全国は３２．８３％ということで、ここでも全国の未婚率より鳥取市での未婚率の方が低いということで、未婚率に関する限り、鳥取市の未婚率の水準は全国より低いのが実情であります。ですからより多くの率で結婚しているということになります。

そういう中で、先ほどから質問の中で御紹介のあった、異性との出会いの場がないといった若者の実態を我々も認識をして、市として平成２２年度より新たな出会い支援事業補助金を創設して、婚活事業に対して支援をする取り組みを展開してきております。昨年度は５団体、今年度は７団体に対して資金的な支援をしています。いわゆる補助したわけですね。こ

の結果につきましては、若者が気軽に参加できるようになったこともありまして、現在までの実施事業で延べ５８８名の男女の参加がございます。うち１２８名についてはカップルが成立して、その中から既に結婚にこぎつけたという報告が１件実績として我々のところに情報が入っております。こうした取り組みにつきましては、市としてはこれからもしっかり支援の取り組みを考えて、市内で効果的な婚活事業が民間の力で、ＮＰＯでもいいですし、そういった方々の手によって、個人のような方々でもいいのですが、グループ、それから今、若者会議Ｂグループで行われたケースも松尾議員御承知のようにあるわけでありまして、こういったことをどんどんできる限り支援して、活性化していきたいと考えております。効果もそれによってだんだん上がってくると考えております。

（２）鳥取市の少子化対策について

○松尾慶輔議員

御答弁ありがとうございました。

それでは、重ねて質問いたします。

鳥取市では、結婚による若者定住を促進し、人口増加を図ることを目的として、鳥取市新たな出会い支援事業補助金を創設されています。つまり婚活で結婚につなげ、その後の出産により人口増加を図ろうというものだと考えます。国立社会保障・人口問題研究所が発表した出生動向基本調査、これは夫婦を対象とした結婚と出産に関する全国調査、その資料によりますと、完結出生児数、これは夫婦の最終的な出生子供数をあらわしますが、２０１０年で初めて２人を下回りました。また、夫婦に尋ねた理想的な子供の数は前回調査に引き続き低下し、調査開始以降最も低い２．４２人となりました。

それらの原因として最も多いのは、子育てや教育にお金がかかり過ぎるからということです。とりわけ３０歳未満での若い世代では、こうした経済的理由を選択する割合が高いようです。一方で、３０歳以上では、欲しいけれどもできないからなどの年齢、身体的理由の選択率が高いようです。また、３０歳代では、これ以上育児の心理的、肉体的負担に耐えられないからという回答がほかの年齢層に比べて多いのが特徴です。

次に、今後、子供を産む予定がある夫婦に、予定の子供数を実現できないときに考えられる理由について尋ねたところ、妻が３０歳未満の若い層では４割以上が収入が不安定なことを上げています。また、妻３５歳以上の夫婦では、６５．３％が年齢や健康上の理由で子供ができないことにより、予定の子供数が持てない可能性があると考えています。つまり結婚

しても理想的な子供の数を出生できないという厳しい状況にあるわけです。このような状況が少子高齢化という問題の原因になっていると思われます。

厳しい財政状況にあり、年金が今後継続的に支払われていくのかという不安と雇用問題などがあっては、将来設計を立てにくいということもあります。一方で、子供なくして明るい未来はあり得ません。これらを踏まえて、鳥取市の少子化対策の方針についてお伺いいたします。

○竹内市長

人口増加対策という観点からも、また、少子化対策といった位置づけからもいろんな取り組みをしております。具体的な取り組みを担当している健康・子育て推進局長からお答えをいたします。

○武田健康・子育て推進局長

お答えいたします。

本市におきましても少子化は進んでおりまして、具体的な数字で申し上げますと、平成１６年、１，９０３人という出生数がございましたが、平成２１年にはこの数が１，６７８人まで減っております。５年間で２００人余り減少しておるという状況でございます。

この出生数が減少しています大きな原因は、若年層の県外流出によります出産年齢人口の減少であるととらえております。本市におきましては、その対策といたしまして、平成２２年８月に鳥取市若者定住戦略方針を定めまして、若者の定住対策に戦略的かつ総合的に取り組んでおるところでございます。

中でも若者の転出の主要な原因であります地元での雇用不安の解消、これを第一義的な課題ととらえまして、鳥取市雇用創造戦略方針を定めて、若者定住戦略方針と連動した総合的な取り組みを進めているところでございますし、また、昨年７月には地元就職支援・人材確保強化チームを設置いたしまして、県や民間企業と連携しながら、市内での就職機会の確保に重点的に取り組んでおるところでございます。

議員の御紹介でもございました出生動向基本調査では、子育てにお金がかかることが理想とする子供を実現できない１番の理由であるということでございますが、まずは雇用の安定を図ることが子育てに要する経済的な負担感への心理的要因の解消につながると考えております。

本市の第９次総合計画では、リーディングプロジェクトの一つに健康で安全・安心な暮らしプロジェクトを掲げておりまして、その主な内容の一つに、安心して妊娠、出産、子育て

ができる支援体制の整備を上げております。その中の施策でございますが、妊娠、出産の支援など、周産期医療や小児医療体制の整備、乳児健診の実施や保健師などによる赤ちゃん訪問などの子育て相談体制の整備、また小児特別医療制度の拡大、発達の気になる子供への相談体制の充実、保健・医療・福祉・教育の連携によります切れ目のない子供の発達支援体制の整備、こういったものを行っております。

ただいま紹介した施策の中でも具体的な取り組みといたしまして、妊婦健診の助成でありますとか、あるいは不妊治療への助成も実施しておりますし、また、母子栄養食品の支給、さらには任意の予防接種でありますＨｉｂワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの無料接種、また、先ほど紹介しました中学校卒業までの医療費の自己負担の軽減、こういったものもやっております。また、保育料は国の基準を大きく下回っておりまして、預けてもらいやすいような環境を整えております。こうした子育て世代の負担の軽減、一生懸命努めておりますが、それ以外に子ども手当、児童扶養手当の支給といった国、県との協調のもとでの次世代育成支援にも力を注いでおるところでございます。以上でございます。

（３）鳥取市における子育て王国鳥取について

○松尾慶輔議員

御答弁ありがとうございました。

それでは、重ねて質問いたします。

鳥取県では、子育て王国とっとりと銘打っております。私はこのフレーズを大変気に入っております。そこで、鳥取市における具体的な取り組みとその成果及び鳥取市の独自の取り組みについてお伺いいたします。

○竹内市長

鳥取市におきましては、鳥取市次世代育成行動計画というのを何回かつくってきておりまして、現在の計画では４つの大きな目標を掲げております。１つは親と子の心身の健康、そして子育て家庭の相談体制の充実、これが２番目でして、そして地域ぐるみの子育て支援が３番目、子供と子育て家庭に優しい環境づくり、この４つでありますが、その目標のもとで細かい具体的な施策を行っております。

特に子育てと仕事の両立ということを支援する取り組みとして、保育園の充実に力を入れており、先ほども局長から答弁しておりますが、保育料を国の基準より低く設定するとか、それから平成１８年度より年間を通じて待機児童ゼロを維持するためのあらゆる努力を重ね

ているということがあります。そういった努力をする結果として、保育園児の受け入れ数が増加してくるわけでありますが、平成１８年９月末現在の受け入れ児童数が４，８８７に対して平成２３年９月末、同じ時期で比べるということでこういった年度の中間の時点をとっておりますが、これが５，３６２ということで、差し引き４７５人ふえているということであります。保育園での受け入れ数をふやすということなどを通じて、子育て王国なり、子育てに適した環境を整えていくといったことをいたしております。

こういったことのためには、幼保一体化施設のこじか園を開設したり、あるいは認定こども園を開設したりといった幼保の一元化あるいは一体化といったような考え方に基づく施設、これは一つの新しい流れでありますが、そういったものもつくってきているということがあります。

そのほか、子育て支援カードなどを県下で他に先駆けて導入するとか、そういったいろんな取り組みをしてきております。

子育てということに関して総合的に市としても福祉サービスの充実などを通じて行ってきておりますが、やはり地域、家庭あるいは企業、そういったところの理解も不可欠であります。そういう意味で、行政だけでできることではなくて、地域を挙げて、家庭とか企業も含めて、こうした取り組みが効果を上げられるように、市としても総合的な施策、総合的な支援、そうしたことにこれまで以上に努めていきたいと考えております。王国という言葉がいいかどうかは別にして、本当に子育てしやすい環境を常に整えていけるような努力を今後とも重ねていきたいと考えております。

○松尾慶輔議員

ありがとうございました。

私ごとではありますが、ことしの春、子供が生まれる予定になっておりまして、そういった意味で、非常にこういった子育てというのは大きな関心を持っておるところであります。

先日、中央保健センターにおいてパパママ学級という講座がありまして、そちらの方に参加させていただきました。この中には特に、市長を初め、それから幹部の方々、子育てをしてこられて、いろいろと苦労があるかと思いますが、私も初めてそういう立場になって、不安が非常にあります。そういった意味で、そういった講座で子育てについての講話をいただくなど非常に有意義な時間を過ごすことができました。そういった意味でも今後とも、経済的なことはもちろんですけども、精神的なことについても、不安の軽減であるとか、払拭をしていけるような施策を実現させていただきたいと思っております。特に人口が減少したと

いう話がありまして、平成の大合併をしたときは２０万人、人口がいたと思いますが、今は恐らく１９．５万人ぐらいということで、人口は減っているかと思います。そういったところを改善することによって、今後、さらなる発展があるのではないかと考えております。

最後になりますが、２年前、この議会で私は鳥取砂丘の利活用について質問をさせていただきました。その中で、砂おこしで町おこし、砂像のまち鳥取ということをお話しさせていただいております。その後、あちらこちらで砂像、砂の像を見ることができて、そしてことしの春、４月には、いよいよ世界初の砂の美術館がオープンするということで、大変、私はうれしく思っております。そういったことを踏まえて、今後、鳥取市のさらなる発展を願って、私の質問とさせていただきます。以上でございます。